

平成27年度 学校自己点検・自己評価

1. 学校の教育目標

新潟こども医療専門学校は、学校法人新潟高度情報学園の組織の中の一つであり、その教育理念は学校教育法に基づき「商業実務および教育・社会福祉分野において専門的な知識・技術と合わせ、教養人格度の高い道義・礼節・作法をも身に付けた人材の育成」を目的とした教育機関である。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

こども未来学科・・・職業実践専門課程の認可を受け、さらに現場力を高めることを意識しながら、大学卒業の証である学士を取得し、幼稚園教諭免許・小学校教諭免許・養護教諭免許が一種であることを理解し学力・資質ともに向上し公務員試験合格を目指す。

こども発達学科・・・職業実践専門課程の認可を受け、さらに職業教育の特色として実習の多さを活かしながら現場力を高める育成を目指す。そのことを生かして実践力の向上を目指し、就職につなげていく。

保育科・・・職業実践専門課程の認可を受け、さらに2年間で保育士と幼稚園教諭2種免許状を取得するため、学力はもちろん、より現場力・精神力の向上を目指す。

医療事務総合学科・・・職業実践専門課程の認可を受け、知識・技術・技能を机上の勉学と共にしながらより職業に必要な実践・専門的な能力の育成を課外実習を通して教行い職業教育の維持向上を図る。また、単位制導入により個々の将来像と照合し効率的に学習を進める。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4 3 2 1
・ 学校における職業教育の特色は何か	4 3 2 1
・ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 3 2 1
・ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	4 3 2 1
・ 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに 向けて方向づけられているか	4 3 2 1

① 課題

学校の理念や目的、特色等は担任制をとっているため学生への周知は徹底されている。また、関係の園や院に対しても信頼を得られるよう取り組みを行っている。その中で保護者への周知に力を入れる必要がある。学校の将来構想について昨今の少子化や大学入学易化の変化により、中長期的に柔軟に対応していくことが必須の課題である。

② 今後の改善方策

学校の理念や目的、特色等を保護者等に周知するにあたり、HP等のWebを利用した方法や外部への訪問学生のボランティアや実習の巡回を通してより広める必要がある。
学科ごとの教育目標を具体化することや教員の共通理解を行い、より高度な育成人材像に加え学科に対応する社会に求められる人材にあった取り組みを考えていく必要がある。

③ 特記事項

特になし

(2) . 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4 3 2 1
・ 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4 3 2 1
・ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、 有効に機能しているか	4 3 2 1
・ 人事、給与に関する規程等は整備されているか	4 3 2 1
・ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4 3 2 1
・ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 3 2 1
・ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4 3 2 1
・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 3 2 1

① 課題

情報システムによる業務の効率化をさらに向上できるような取り組みが必要である。また学生等の個人情報流出が無いようにする配慮が必要となる。

意思決定機関は詳細に分類され部署ごとの会議によって迅速な対応ができるようにしているが、各学科の共通理解をさらに深いものにするための取組が必要となる。

② 今後の改善方策

業務の効率化によるチェック体制をより強固にし、見落としがないように行わなければならない。そのためには、職員同士の共通理解による状況の把握が必要であるため、より情報を共有するためにサーバー及び会議の工夫、個人情報の保護の徹底が必要になってくる。

③ 特記事項

特になし

(3) . 教育活動 (こども未来学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 (3) 2 1
・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に 対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4 (3) 2 1
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	(4) 3 2 1
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の 工夫・開発などが実施されているか	(4) 3 2 1
・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・ 見直し等が行われているか	(4) 3 2 1
・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、 実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	(4) 3 2 1
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	(4) 3 2 1
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	(4) 3 2 1
・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	(4) 3 2 1
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	(4) 3 2 1
・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保 しているか	(4) 3 2 1
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保 するなどマネジメントが行われているか	(4) 3 2 1
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力 育成など資質向上のための取組が行われているか	(4) 3 2 1
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 (3) 2 1

① 課題

4年間の意欲の継続に加えて、小学校教諭、養護教諭の免許取得と採用試験合格に向けての
対策を早期に実施することが求められる。

② 今後の改善方策

小学校教諭、養護教諭試験対策を試行的に全学年対象に実施をしたが、これに関するより組織的な
体制整備を行っていきたい。

③ 特記事項

特になし

(3) . 教育活動 (こども発達学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 (3) 2 1
・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に 対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4 (3) 2 1
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 (3) 2 1
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の 工夫・開発などが実施されているか	(4) 3 2 1
・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・ 見直し等が行われているか	(4) 3 2 1
・ 関連分野における実践的な職業教育 (産学連携によるインターンシップ、 実技・実習等) が体系的に位置づけられているか	(4) 3 2 1
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	(4) 3 2 1
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	(4) 3 2 1
・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	(4) 3 2 1
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	(4) 3 2 1
・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保 しているか	(4) 3 2 1
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員 (本務・兼務含む) を確保 するなどマネジメントが行われているか	4 (3) 2 1
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力 育成など資質向上のための取組が行われているか	4 (3) 2 1
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 (3) 2 1

① 課題

保育力向上のために実践的な授業を工夫しているが、学生の学力、資質の差が大きく個々に合った対応が不足している。

② 今後の改善方策

保育力の確実な向上を目指し、保育実習指導、教材研究の科目においてクラスを半分にわけ少人数制での授業展開を試みた。その結果、学生の状況把握ができ、指導における効果が見られたので、今後も継続して取り組んでいきたい。

③ 特記事項

特になし

(3) . 教育活動 (保育科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 (3) 2 1
・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に 対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4 (3) 2 1
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 (3) 2 1
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の 工夫・開発などが実施されているか	4 (3) 2 1
・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・ 見直し等が行われているか	(4) 3 2 1
・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、 実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	(4) 3 2 1
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	(4) 3 2 1
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	(4) 3 2 1
・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	(4) 3 2 1
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	(4) 3 2 1
・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保 しているか	(4) 3 2 1
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保 するなどマネジメントが行われているか	4 (3) 2 1
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力 育成など資質向上のための取組が行われているか	4 (3) 2 1
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 (3) 2 1

① 課題

（ 提携校変更によるカリキュラムの変動にどう対処していくか ）

② 今後の改善方策

（ 新カリキュラムを把握し、時間数の確保と授業内容の見直しを徹底する ）

④ 特記事項

（ 特になし ）

(3) . 教育活動 (医療事務総合学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に 対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の 工夫・開発などが実施されているか	4 ③ 2 1
・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・ 見直し等が行われているか	4 ③ 2 1
・ 関連分野における実践的な職業教育 (産学連携によるインターンシップ、 実技・実習等) が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 ③ 2 1
・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保 しているか	4 ③ 2 1
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員 (本務・兼務含む) を確保 するなどマネジメントが行われているか	4 ③ 2 1
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力 育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

① 課題

(授業や学生指導に活かせる講習を受ける機会が少ない。)

② 今後の改善方策

(外部で実施される講習等について積極的に情報収集する体制が求められる。)

⑤ 特記事項

(特になし)

(4) . 学修成果 (こども未来学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 就職率の向上が図られているか	4 3 2 1
・ 資格取得率の向上が図られているか	4 3 2 1
・ 退学率の低減が図られているか	4 3 2 1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 3 2 1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 3 2 1

① 課題

保育、教育以外の就職を希望する学生への情報提供や支援。

② 今後の改善方策

様々な職種に就職をした卒業生を含む社会人からの現場の声を聞く機会提供する。

③ 特記事項

特になし。

(4) . 学修成果 (こども発達学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 就職率の向上が図られているか	4 3 2 1
・ 資格取得率の向上が図られているか	4 3 2 1
・ 退学率の低減が図られているか	4 3 2 1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 3 2 1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 3 2 1

① 課題

1年次 退学者の原因として精神問題があげられる。その意欲を失った学生の様子が学級内に影響を及ぼし短期間につらなり続く傾向がみられた。

② 今後の改善方策

はやめの学生対応やまわりの学生からの情報を入手しクラス全体の雰囲気づくりに配慮する。担任一人の問題とせず、学年 学科全体で一貫した指導ができるようさらに連携が必要である。

③ 特記事項

特になし

(4) . 学修成果 (保育科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・ 資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・ 退学率の低減が図られているか	4 ③ 2 1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 ③ 2 1

① 課題

28年度には保育士資格のみを取得し卒業する学生がいるため、就職活動や就職後にどのような影響があるのか、前もって予想し、対応できるよう準備しなければならない

② 今後の改善方策

保育士資格のみ取得したこれまでの卒業生が現在幼稚園教諭免許を取るために努力をしている実態があるが、特例制度の施行が平成32年3月までとなると、現在の学生が受講することは不可能である。保育士資格のみの学生の就職希望先・勤務形態・条件などは将来を見据えたものでなければならず、そのためのフォローが必要である。

③ 特記事項

特になし

(4) . 学修成果 (医療事務総合学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・ 資格取得率の向上が図られているか	4 ③ 2 1
・ 退学率の低減が図られているか	④ 3 2 1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④ 3 2 1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 ③ 2 1

① 課題

どの検定試験も例年より合格率の低下が目立つ。集中力の欠如や、基礎学力の低さが原因と考えられる。

② 今後の改善方策

初期の段階から教科に苦手意識をもたないように、個人の様子を見ていく必要がある。特に医療事務系教科は進度が早いため、遅れが見られる学生には定期試験等の時期に限らずサポートを行っていく。

③ 特記事項

特になし

(5) . 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
	・ 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2
・ 学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
・ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
・ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・ 学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
・ 保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
・ 卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
・ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
・ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1

① 課題

（ 上記項目の評価が「3」についても、より能動的な対応ができる体制づくりが望ましい。
引き続き、就職・研修支援担当の補充を早急に行う。 ）

② 今後の改善方策

（ 特になし ）

③ 特記事項

（ 特になし ）

(6) . 教育環境 (こども未来学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 3 2 1
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 3 2 1
・ 防災に対する体制は整備されているか	4 3 2 1

① 課題

公務員対策室での自習は定着してきたが、各学年が使用できる教室が常に用意できることが課題となる。

② 今後の改善方策

図書室なども有効に活用することが求められる。

③ 特記事項

特になし

(6) . 教育環境 (こども発達学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 3 2 1
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 3 2 1
・ 防災に対する体制は整備されているか	4 3 2 1

① 課題

状況により学生対面談のために空き教室がないことが多く不便を感じる。一人ひとりときちんと向き合える落ち着いた環境をととのえることが出来ず教育効果が発揮できない。

② 今後の改善方策

面談室の設置等空き教室の有効活用を行い、落ち着いた雰囲気の中で学生対応ができるような配慮をしていく。

③ 特記事項

特になし

(6) . 教育環境 (保育科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 (3) 2 1
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 (3) 2 1
・ 防災に対する体制は整備されているか	4 (3) 2 1

① 課題

(引き続き、音楽実習室の通路の確保が万全でない。災害時にすばやく避難できるのか。)

② 今後の改善方策

(・ 音楽実習室の楽器の配置を考える。ただし、その場合、ホワイトボードの面を変えなければならない
・ 音楽実習室自体を広く活用できるよう設置を考える。)

③ 特記事項

(特になし)

(6) . 教育環境 (医療事務総合学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 (3) 2 1
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	(4) 3 2 1
・ 防災に対する体制は整備されているか	4 (3) 2 1

① 課題

(医療PC室には最前列にプロジェクターのモニターが1台あるが、後ろの席からは見づらく不自由である。)

② 今後の改善方策

(後列からも見やすい位置にもモニターを設置する。)

③ 特記事項

(特になし)

(7) . 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 学生募集活動は、適正に行われているか	4 3 2 1
・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4 3 2 1
・ 学納金は妥当なものとなっているか	4 3 2 1

① 課題

こども分野では年度途中で提携校変更があり大学学費が変更になったため、発行済みの募集要項の合計金額に合わせる形で急遽対応をした。再度適正であるかを検討し修正していきたい。

② 今後の改善方策

他校の状況などとも比較検討しながら適正な金額設定ができるよう検討する。また、納入方法もあわせて検討する。支払いの困難な者については、これまで通り個別に延納・分割等に対応していきたい。また、新たな学費支援制度を検討する。

③ 特記事項

特になし

(8) . 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4 3 2 1
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4 3 2 1
・ 財務について会計監査が適正に行われているか	4 3 2 1
・ 財務情報公開の体制整備はできているか	4 3 2 1

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

(9) . 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
	・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
・ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	3	2	1
・ 自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

① 課題

全項目について適正な運営を行うよう努めているが、個人情報保護管理体制を整備・強化しなければならぬと考えている。

② 今後の改善方策

学生の個人情報データを自宅に持ち帰らないことやUSBへのコピー禁止など、教職員の意識強化だけでなく個人情報取り扱い規程を作成し、保護管理体制を強化する。

③ 特記事項

法令遵守のための体制を強化し周知徹底することが重要である。また個人情報の保護に関しては、定期的な確認とともに、より一層の意識の統一を図っていくことが大切である。

(10) . 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
	・ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	2
・ 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
・ 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

① 課題

施設見学、フィールドワーク、ボランティアを通じて社会福祉施設との連携は構築されつつある。

② 今後の改善方策

今後は関係を構築する機関を増やし、社会貢献活動を積極的に行っていく。

③ 特記事項

今年度は県内全域を対象に幼稚園教諭資格特例講座講座を実施し、全受講生が合格した。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本校が挙げる「商業実務及び教育・社会福祉分野において、専門的な知識・技術と合わせ教養人格の高い道義・礼節・作法をも身につけた人材の育成」の教育目標を軸に、日々の積み重ねにより学生の指導、就職へと繋がっていることは、現在も継続されていることが見受けられる。今後も「道義・礼節・作法をも身につけた人材の育成」に向けた取り組みを継続的に行っていく。

平成27年度の自己評価を振り返ると、学生の資質向上を目標とする中で、学生の一人ひとりのフォローが挙げられる。当校では担任制の利点を生かした学生一人ひとりを大切にする手厚い指導を行っているが、担任一人に学生に関するすべての対応を託すのは、今後様々な環境で過ごす学生が多くみられることから、困難なことが考えられる。そこで明らかになる学生指導上の課題を役職会議や職員会議を通して情報共有を図ることや学科内での情報共有、授業担当との連携など、学校全体で学生一人ひとりを育てる体制をとることが今後も必要であろう。また、当校は教科指導と担任を併用して行っている。また、担任経験年数や経験職種の違い等もあることから、学校全体での教職員の資質向上に向け、教職員研修、研究活動などを充実させた取り組みをしていくことをさらに考えていきたい。

さらに学生の現状を踏まえた教育計画を立て、系列付属園や医療機関等における実習の充実、近隣地域との関わりによる学生の資質向上を目指した取り組みをしていくことは大切である。職業実践を行う専修学校として、外部機関との繋がりを大切にし、常に新鮮な情報を得ることが、学生の資質向上、就職支援の他、教職員の資質向上に繋がるのではないかと考える。今後も、「こども分野」「医療分野」それぞれの分野に関わる業界ニーズをいち早く捉え、自立した学生の指導を目指していきたい。昨年度より全学科が職業実践専門課程を文部科学省より認可され、学校内の学習だけでなく、より学外の企業との連携を取り学生たちの資質向上を図りたいと考えている。

そして情報システムが多様化される中、システムをより有効活用できるようシステムの構築や個人情報の保護、情報流出の防止等についてもより強化できるよう配慮を行うことが大切である。

今後もこの体制を崩すことなく教職員共通認識の下で学生指導、学校運営を行っていききたい。

最後に、この点検・評価は透明性と公開性の高い評価であり、本校が「専門学校等評価基準」に基づく自己点検・自己評価活動を適切かつ適正に行っていること、および本校の教育活動と学校運営の全てが基準を満たしていることを証明するものである。

本校はより良い教育の場であることを目指して更なる改善に努めたいと考えている。